

平野零児 恐の小説家。明治二十年一月十六日兵庫県生れ、昭和二十六年八月、千石台坂（一九七一—九六二）。舊姓山内、本名嶺夫。別名石京無來、平野零一、日暮一夫、竹野廿一等。東京正則英学専門学校中退。新聞記者を経て作家生活。

著書『航空ニッポン』（昭和七年八月十七日内外社）、『マンガウの雨』（昭和十九年五月二十日大信書房）、『人間改造—私は中国の戦犯であった』（昭和二十一年十一月二十日二書房）、『中共虜囚記』（昭和二十二年一月十五日毎日新聞社）、『満州の陰謀者—河本大作の運命的な足あと』（昭和二十四年二月二十五日自由国民社）、『随想集—くちやもん』（平野零児と本いさむる会編、昭和二十七年十一月一日平野零児遺稿刊行会）等。

